

# 会員が診断事例を発表

## コンクリート診断士会 技術交流会

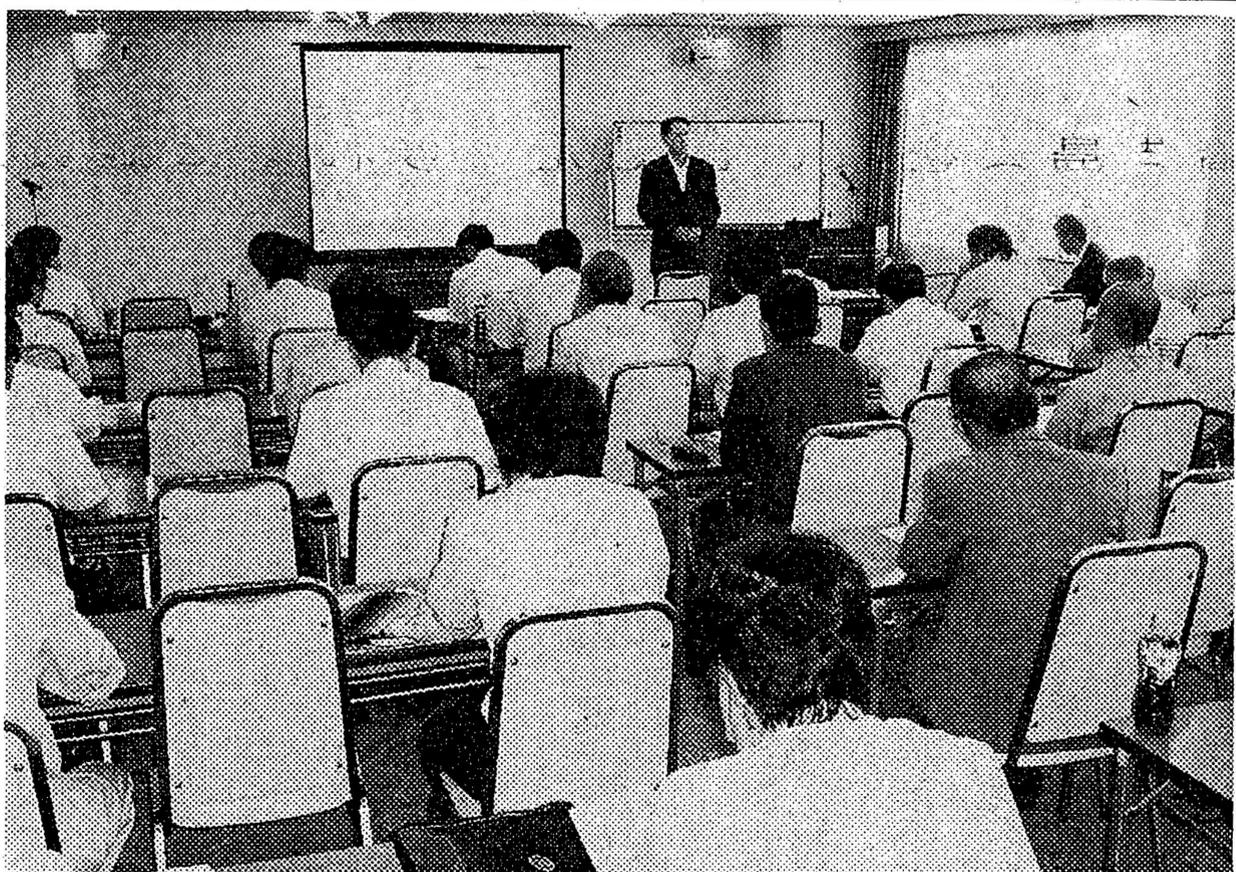
福井県コンクリート診断士会（石川裕夏会長）は16日、福井県職員会館で「10年度技術交流会」を開き、会員自らが取り組んだコンクリート診断事例を発表した。

会員約50人が参加。石川会長はあいさつの中で、「今年7月に全国組織である日本コンクリート診断士会が設立された。一般社団法人の認可

は得てないが、これから活動が始まる。全国組織と福井の組織が役割を分担し、相乗効果が発揮できるようにしたい」と展望したうえで、「この技術交流会は今回5回目。診断士の登録更新のレポートに基づき会員に診断事例を発表してもらい、意見交換することで会員

相互の技術交流を図ることを目的にしている。なお、全国組織に何を求めるかについては、発表会のあとで意見を出していただきたい」と述べた。続いて会員5人が5つの診断事例を報告した。

### これからのあり方も協議



約50人が参加した交流会

ル調査設計 岡田幸一氏）▽海岸線付近に架橋された橋梁の塩害調査（日本ピーエス 立石陽輝氏）▽福井県における道路構造物長寿命化への取り組み（福井県土木部道路保全課 出口一也氏）▽アルカリ骨材反応により損傷を受けたRC床版の劣化調査診断（サンワコン 松下洋氏）⑤光ファイバーセンサによる塩害橋の調査（国土開発センター 横山広

氏）。発表者は対象構造物の調査にあたった経緯や劣化状況などを説明しながら、それぞれの診断結果から課題等をまとめ、質疑・応答した。このあと、石川会長が日本コンクリート診断士会の組織と活動内容等について説明し、これからの診断士会のあり方として診断士会の存在意義や社会的役割、社会的地位の向上の確立などについて協議した。